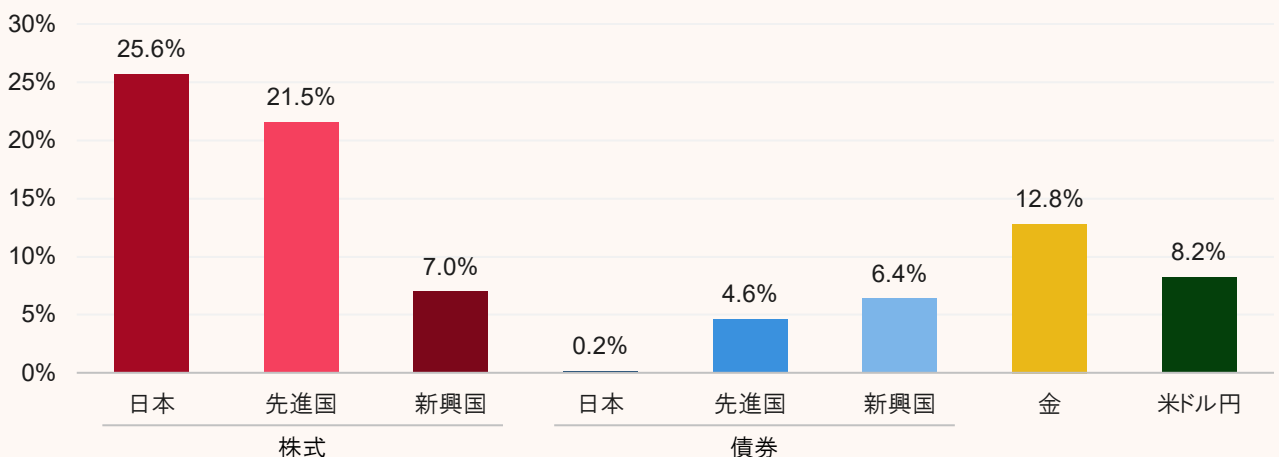
Vol
179**「今後の見通しを教えてください！」
市場動向が気になったときに思い出したい投資の姿勢**

2023年も残りわずかとなりました。年末にかけては、年内の損益通算や翌年の投資戦略を考えるという方も多いのではないのでしょうか。そこで、今回は「これからどうすればいいの？」という、この時期に多く寄せられるお問い合わせにお応えしたいと思います。

**概ね堅調だった2023年の金融市場**

「未来は過去の延長線上にある」などとも言われますが、相場動向などの説明の際には、まず足元の動きをお伝えしています。例えば今年は、各国の利上げに加え、中国の先行き不安、前年に続くロシアのウクライナ侵攻といった地政学リスクの高まりが強く意識された年だったといえるでしょう。

金融市場の概観としては、「株式や金は堅調、債券は年末に反発、為替は円安方向で推移」といったところでしょうか。日本から海外資産に投資をしているなら、円安の追い風もあって、円ベースで見た資産価格の上昇を実感した方も多かったと思います。

2023年の主な資産と米ドル／円の騰落率（現地通貨ベース）

期間：2022年12月30日～2023年12月14日 ※日本株式：TOPIX（配当込み）、海外先進国株式：MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み）、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み）、日本債券：FTSE日本国債インデックス、海外先進国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本）、新興国債券：JPモルガンGBI-EM グローバル、金：ロンドン・ゴールド・マーケット・フィキシング※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

短期の予想は当たらない前提で資産運用を

こうした動きを受けて、「株式は来年も大丈夫？」「そろそろ債券に投資した方がいい？」「今後の円高リスクが気になる」といった考えを巡らせる方は多そうです。ただ、見通しなどを聞かれた際には、短期的なものであっても「予想が当たらない可能性」を踏まえてお話ししています。

年末年始にかけては、いろいろな人が驚きのものも含めた様々な予想を披露しています。専門家の意見などは信じたくなりますが、百発百中はないということは常に心に留めておくべきです。

相場を動かしそうな2024年のイベントは？

米国大統領選挙は？

日銀の政策見直しは？

米国利下げ？

自民党総裁選は？



2016年に世界が騒然

事前の大方の予想を裏切ったブレグジット

欧州連合(EU)に対してくすぶる英国の不満

- 主権の喪失(EUが政策を決定)
- EU本部への定期的な拠出
- 移民の増加

2016年6月23日

英国がEU離脱の是非を問う国民投票を実施

EU圏内のヒト・モノ・カネの自由な往来というメリットを考慮すると残留するだろう

EU離脱派が勝利

金融市場は一時混乱へ



例えば、ここ数年の出来事を振り返っても、新型コロナウイルスの感染拡大やロシアのウクライナ侵攻、ハマス・イスラエル軍事衝突といった、予想だにできなかったことが起こりました。また、2016年の英国におけるブレグジット(BREXIT)や米国でのトランプ大統領の誕生のように、当初の予想を裏切るイベントの発生も珍しいことではありません。さらに、仮に予想が当たっても、市場の反応は違ったということもよくあります。

そのため、じっくりと資産を育てていくことを目指すなら、短期的な予想に基づいた行動は少し見直した方がいいかもしれません。つまり、短期ではなく長期、時代の大きな流れをしっかりと捉えていこうという姿勢が大切になるということです。

資産運用では大きな流れを捉えることが重要

株式や債券、金などの動きだけを見ても、毎年の勝ち負けや変動幅には違いがあります。しかし、「世界経済が成長する中で、多くの資産は成長してきた」「同様のことがこれからもありそう」という見立ては、多くの方に賛同いただけるところかと思えます。

これは、世界経済という大きな話に限ったことではなく、特定の国や産業についても当てはまります。日々のニュースや口座の評価損益を目にすると、どうしても数日あるいは数カ月の時間軸で判断を下してしまいがちです。ただ、その判断が「これからの数十年の動きに変化をもたらす事柄に基づくものなのか？」という視点は重要です。

主な資産の年次騰落率(円換算ベース)

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年*
	先進国債券 32.4%			新興国株式 32.3%		先進国株式 27.2%				先進国株式 32.9%
日本株式 54.4%	先進国株式 20.3%		新興国債券 8.7%	日本株式 22.2%		日本株式 18.1%		先進国株式 37.6%		日本株式 25.6%
先進国株式 53.7%	金 13.9%		新興国株式 8.2%	先進国株式 17.8%		金 17.3%		先進国債券 16.6%		先進国債券 23.5%
先進国債券 49.0%	新興国株式 11.3%		金 5.2%	新興国債券 11.0%		新興国株式 17.3%	金 18.5%	日本株式 12.7%		金 22.4%
新興国株式 18.2%	日本株式 10.3%		先進国株式 5.1%	金 8.5%		先進国債券 12.7%	先進国株式 10.3%	新興国株式 8.6%		新興国株式 15.4%
新興国債券 11.0%	新興国債券 8.4%	日本株式 12.1%	日本債券 3.7%	先進国債券 0.9%		先進国債券 4.5%	日本株式 7.4%	新興国債券 7.3%	金 14.4%	先進国債券 15.3%
日本債券 2.2%	日本債券 4.9%	日本債券 1.3%	日本株式 0.3%	日本債券 0.2%	日本債券 1.1%	日本債券 2.3%	先進国債券 0.7%	金 6.6%	新興国債券 4.1%	日本債券 0.2%
金 -11.8%		先進国株式 -1.4%	先進国債券 -5.7%		金 -3.6%		日本債券 -1.1%	日本債券 -0.2%	日本株式 -2.5%	
		先進国債券 -4.2%			先進国債券 -7.0%		新興国債券 -3.7%		先進国株式 -6.8%	
		金 -11.8%			新興国債券 -8.5%				日本債券 -7.4%	
		新興国株式 -14.6%			先進国株式 -10.8%				新興国株式 -9.0%	
		新興国債券 -16.7%			日本株式 -16.0%					
					新興国株式 -16.8%					

期間：2012年12月30日～2023年12月14日

* 2023年は12月14日まで

※各資産で使用した指数はP1をご参照ください。

※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

私たちがご提供している投資信託は、複数の資産や銘柄に分散投資をして、5年や10年、あるいはそれ以上の時間をかけて資産を育てていく金融商品です。だからこそ、お客さまには、より長い目線を意識してお持ちの投資信託の保有や売買を考えていただきたいとお伝えしています。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00

日興アセットマネジメント